

聖書回復と革命

エルサレムからローマへ：ボストンからモスクワへ
キップ・マッキー

革命とはイエスに従おうとするものが現在に至るまで築いてきた歩みの積み重ねである。たった一人でも、「このままでは神の計画を成し遂げることはできない」と神のために立ち上がるときに革命が始まる。神の目的は全て神の栄光と人々のニーズを満たすことに集約され、そのために生きたイエスは究極の革命家である。

初めて教会ができてから数世紀たって教会は本来あるべき姿から逸脱していた。これを修正しようとした者たちは、当時のキリスト教体制に拒否され独自に純粋な神の動きを求めようと試みて、新たなグループを形成して行った。私たちは、死をかけても聖書の真理を回復しようとした先駆者の信仰に感謝しなければならない。私たちの時代には信仰を失ってしまった神学校や、神の言葉に妥協し、それをごまかしているような滅びかけた諸宗派があふれており、真の「神の動き」に反抗している。しかしながら、神の聖霊は私たちが神の言葉を人生の唯一絶対の基準にすることを求め続けている。しかるに私たちが教会を改革し第一世紀のクリスチャンの教えと生活を取り戻すためには、従来神から離れた伝統や偽善で毒された土台を完全に捨て去るしか方法はない。この道を行けば恐れもあるが喜びも大きい。なぜなら、その過程は試行錯誤を繰り返し、壁にぶつかりながらも聖書の教えを回復していくものであり、それによって「神の動き」はより純化され、一世代で世界を揺り動かした初代教会のように力強くなっていくものだからである。たくさんのピラト、ユダのような、敵、批判者が現れるであろう。なぜなら聖書回復の道のりを一步一步進むたびに、その道は狭くなり人に悔い改めを迫るからである。聖書どおりに生きようとするものは昔からいつも反対にあってきた。迫害は「神の動き」の宿命である。そこで私は、真理を求めつつも我々に対する批判ばかり聞いている人たちのため、そしてすべての神の人々を励まし力づけるために、この文章を書くことによって私たちの働きについてより詳しく説明することとした。この文章によって私たちの救い主であり主であるイエス・キリストに対する深く、いつも変わらぬ感謝が生まれることを祈る。私は使徒ではなく、使徒のように神に導かれてこの文章を書いているのではない。私は単に神の言葉を回復し、実行していく現代の「神の動き」が止むことなく続いていくことを夢みる一人のクリスチャンにすぎない。

信仰の種

私は1954年3月31日にインディアナ州のインディアナポリスで生まれた。60年代の多くの若者がそうであったように、私も妥協を拒み、どんな犠牲も厭わず「理想」を追いかける人生を生きたいと思っていた。この傾向は私たちの家系ではいっそう強かった。それは祖先のトーマス・マッキーの常に妥協せず努力を怠らない勇気ある人生が、私たち家族に高い期待を持つことの大切さを教えてくれていたからである。トーマス・マッキーはアメリカ独立宣言に署名した人であり、ワシントン将軍からイギリスが降伏したという知らせが届いたときは、当時最高の地位である連邦議会の議長でもあった。またアメリカ海軍の大將であった私の父は若い頃の私に大きな影響を与え、リーダーとして良き手本となってくれたし、ものごとに秀でることも教えてくれた。社交的で暖かい母は人生に対する情熱を教えてくれた。後に人生のヒーローは夢のために文字どおりのちを捧げたジョン・F・ケネディーとマーティン・ルーサー・キング牧師となったが、最終的にはイエス・キリストが人生最大のヒーローとなった。

私は高校生の半ごろまでは特に宗教心があったわけではなかったが、高校一年の終わりのころになるとフロリダ州のメイトランドにある教会で積極的に活動するようになった。この教会はファンダメンタル・メソジストで成長していた。ジム・グリーンという青年グループのリーダーは暖かく優しい家族的な人だった。彼とヒューレイクという牧師、聖書学校の先生たちは、私が聖書が神の言葉で誤りのないものであるという素朴な信仰を持てるように助けてくれた。青年グループは強いきずなで結ばれており、その愛を通して私はイエスを愛し、聖書を毎日読むようになった。私はイエスが私の罪のために死に、3日後に復活したと強く確信を持つに至った。高校3年になる直前に父がシカゴに転勤になり、私は宗教心を捨てはしなかったものの次第に世の中に引き込まれていった。

フロリダ大学1年の終わりに、私はシグマ・カイ・ファタニティー（友愛会）の兄弟であったサム・レイングに大学生ディボーションナルに来るように誘われた。このディボーションナルは14thストリート・キリストの教会（後のクロスロード・キリストの教会）が主催するもので、90人ほどの学生が集まっていた。このゲインズヴィルにある教会はその5年前から「キリストの教会」のキャンパスミニストリーのなかで先駆的活動をしていた。当時「キリストの教会」はキャンパスクルセードを手本とした大学生伝道にフォーカスしており、その活動は、キャンパスアドバンスと呼ばれていた。私はここでキリストのために全てを捧げることを教わり、罪の赦しのためにバプテスマを受けてクリスチャンになった。それは1972年4月11日の真夜中過ぎのことであった。その年の夏、私は帰省先のシカゴで重病にかかった。はれ物が上半身に広がり、私は包帯を巻かれたまま3カ月間過ごした。この試練を通して、特にひどい傷跡が残されたことで、神は私を謙虚にしてくださった。私が病気の間、シカゴで通っていた小さなキリス

トの教会の人たちは私を訪ねて来ることは一度もなかったが、このつらい経験から、私は人々のニーズを満たすことの大切さを痛感した。医者は健康状態が回復しないのでゲインズヴィルに帰ることに強く反対したが、私は強い大学生の交わりにどうしても参加したくて、反対を押し切って大学に戻った。

キャンパスミニストリーでクリスチャン生活を続けていくうちに、私の心の中牧師になりたいという夢が芽生えてきた。この私の夢は2年生の時、神の働きかけでさらに強くなった。当時高校3年生で小さいときから仲のよかった弟のランディーが癌になったことを通して、神は人のいのちが霧のようにもろくはかないものであることと、魂は永遠なものであることを教えてくれた。神が心から望んでいるのは、私たちが神との関係を持つことによって救われること、そして他の人を救うことであると確信した。6カ月後には神のおかげで私はランディーにバプテスマを授けることができた！（16年後には私たちの姉妹であるダイナとその夫のボブがバプテスマを受けた。）その後、「なれ合いのキリスト教」を改革すること、伝道に熱心な小さな聖書学び会グループを通してダイナミックなキャンパスミニストリーをつくるという夢がチャック・ルーカスとその協力者であるサム・レイングの力強い教えによって私の心に根づいて行った。クリスチャンの人生がほかの人の毎日の生活に影響を与え、その人の神の前での運命を変えるのを見て、ディサイプリングが有効かつ重要であることを確信した。

1975年にフロリダ大学をPhi Beta Kappa（学業優秀な大学生の中から選抜された会員が、終身会員の資格で参加する全米的組織を持つ優等学生友愛会の会員資格）として卒業した。その後すぐにフィラデルフィアの近くにあるメインラインの「キリストの教会」の学校であるノースイースタン・クリスチャン大学のキャンパスミニスターとして働くように依頼された。私はそこで「クリスチャン」と呼ばれている多くの学生たちがコミットメントを失い、彼らの間で麻薬、泥酔、偏見、不品行、なまぬるさが蔓延しているのを知り、宗教心があることと正しい生活をしていることはまったく違うことを認識した。私は同時にイースターン・バプテスト神学校にも通ったが、そこで学部長から「聖書だけが聖霊によって書かれた神の言葉とはいえない」とチャレンジされた。恐れはあったが、信仰による確信をもって、私はその学部長に対して「もし聖書の他に[聖なる書物]があるなら、キリスト教は儒教やイスラム教、仏教、ヒンズー教となんら変わらない一つの哲学にすぎなくなる」と反論した。私にとって、キリストとその言葉は唯一の道であり、唯一の真理であり唯一のいのちである。私はまた「プロイセンの王キリストの教会」の牧師からも「聖書に対する視野がせますぎる」と人前でも批判された。これらのつらい体験に加えて、「自分にはたいしたことはできない」と痛感させられたことで、私は教会奉仕に携わるのをやめようと真剣に考えた。

10カ月の苦く辛い経験の後、私はイリノイ州チャールストンにあるヘリテッジ・チャペルキリストの教会の長老たちに、イースタン・イリノイ大学のキャン

パス・ミニストリーを始めるように依頼された。その教会の主任牧師で心優しいロジャー・ラムに出会い、世界一のベストフレンドであるエレナ・ガルシア・ベンゴチアと1976年12月11日に結婚したことで私の傷は癒された。正式に学校に通ってもっと勉強するれば牧師として成長できると考えて、私は2回の夏休みに渡ってテネシー州のメンフィスにあるハーディング大学宗教学部大学院に通った。私は神学校（イースタン・バプテストとハーディング）の卒業生の人生と彼らの建てたミニストリーと聖書を比較してみて、「神学校は学術研究に役立つことはあっても、牧師を育てることはできない。イエスが12人の弟子たちにしたように、一人の牧師が牧師を目指す人と共に歩むことでそれができる。」との結論を得た。

1976年から1979年の間にチャールストンのキャンパス・ミニストリーはほんの数人から300人に成長した。私はこの間アメリカの数多くの教会でスピーチをしたが、その経験から「キリストの教会」が抱えるいろいろな問題を知ることができた。ほとんどの「キリストの教会」の霊的状况は「なまぬるい状態」と「うんざりする状態」の間にあること（黙3：14-19）。アメリカで「キリストの教会」の動きが始まって200年たった後、平均的「キリストの教会」の会員数は100名ほどで、週日礼拝には半分以下しか参加していないこと。平均して1年に8人のバプテスマしかなく、そのうち6人は会員の子供たちであること。「キリストの教会」で育たなかった人でバプテスマを受けた者のうち、10%以下しか信仰を保っておらず、会員の子供たちでバプテスマを受けた人のうち、半分は教会を去ったこと。このように「キリストの教会」の状況は惨憺たるものであった。また、アピリン・クリスチャン・カレッジの結婚／家庭研究所の調査によると、離婚率は約33%（世の中の割合と同じ）である。フルタイムで働く牧師と宣教師の数が減り続けおり、警戒感がもたれていること。ルーエル・レモンズは1982年2月9日に出た『Firm Foundation（堅い土台の意）』という雑誌の中の論説で過去20年の間に8000のキリストの教会が閉鎖されたと書いている。後にボストン教会に反対する者となったフラビル・イークリイでさえも、彼の著作である『Why Churches Grow（なぜ教会は成長するのか、の意）』の中で「マックリーンが初めて綿密に調査を行った結果、250万人いると言われていたメインライン教会の会員数が実際は96万5439人であることがわかった。15,000と言われていた教会の数は実際は10,165しかなかった。そのうち1000以上の会員数を持つ教会は24しかなく、2000人以上は4教会、3000人以上はわずか1教会であった。アメリカ国外で最大の『キリストの教会』の出席者数は500人であった。」と書いている。

さらにイークリイは「1980年にアメリカの『キリストの教会』は成長がストップし、会員数の減少が始まった。もし1965年から1980年に見られた傾向が今後も続くとすれば、今後数年でアメリカから『キリストの教会』は消えるであろう。」と言っている。この『Worldly Church（世的教会の意）』という

本の中で、今日の「キリストの教会」が世俗化した原因とされている「打算的福音」、「対外的視野の欠如」、「富と地位の崇拜」の3つの傾向があればメインラインの「キリストの教会」がイエスの期待するコミットメントに反発するのも不思議なことではない。

しかし、その数年の間に私の心の中で、いかにキャンパスミニストリーがダイナミックであっても教会全体が「完全に捧げきる」のでなければキャンパスの働きのインパクトは限られてしまうという確信が強まっていった。私だけでなく他の人たちも、クロスロード教会のキャンパスミニストリーの「働き」が弱まって行くのがわかった。「だれも、新しいぶどう酒を古い皮袋にいれたりしない。そんなことをすれば、新しいぶどう酒は皮袋を破って流れだし（てだめになり）、皮袋もだめになる。」（ルカ5：37）。実際にキャンパス・ミニストリーのあつ多くの教会（皮袋）は分裂し、たくさんのキャンパス・ミニスター（ぶどう酒）はミニストリーを辞めていった。それを見て私は、牧師の訓練のためにクリスチャンを神学校に派遣したり、牧師を既存の教会には派遣しないこと、そして新しく訓練する場所を造ることを決めた。「新しいぶどう酒は、新しい皮袋に入れなければならない。」（ルカ5：38）。クロスロードの教会が世の中や「キリストの教会」内のいろいろなグループから激しい迫害を受けたときに、リーダーたちは他の「キリストの教会」との「交流」を維持するためにそれまでの確信を妥協し、行ってきた改革を後退させてしまったのは残念なことであった。

チャールストンとメンフィスにいた間に私は旧約聖書の勉強をすることに力を注いだ。この人生の転換期に得た確信は、神の永遠の計画は伝統的な「キリストの教会」が主張するように私たちが「新約聖書の教会」となることではなく、私たちの教会が「聖書の教会」になるべきであるということであった。永遠の神の御国は、創世記から始まる全聖書のなかで決定的に重要な部分を占め、新約聖書で教会が設立されることによって成就し、黙示録のなかのきたるべき天国に引き継がれるものであるとがわかった。

これと同時に私は「聖書の語ることを語り、聖書が黙っていることについては黙る」という伝統的「キリストの教会」の考え方とは異なった意見を持つようになった。この考え方で行くと人は何をすることも「聖書が命じている」、「聖書のなかに例がある」、「聖書から当然結論できる」といった裏付けがなければなにもできないことになる。そこから発展したものは律法的、パリサイ的な考え方であり、多くの議論や分裂をもたらすことになり、その結果、「キリストの教会」内で分派が起こった。たとえば、「聖書（バイブル）に関するものは聖書（バイブル）の名前で呼ぶ」というきまりは、聖書の中に「バイブル」ということば自体無いので矛盾している！私は聖書から反対の結論を得た。私は聖書が語ることは黙って受け入れ、聖書が黙っていることについて語るべきであると信じている。つまり、クリスチャンは聖書が語ることには素直に従い、聖書が語らないところ

は語れば（意見を持てば）よい。人生のなかで、また教会や私たちの「神の動き」のなかで「システム」を造り上げていく時、「聖書が命じている」、「聖書の中に例がある」、「聖書から判断してそうすべきだと思われる」以外は、聖書が禁止しなければ「自由」にしてよい（ガラテヤ人への手紙、コロサイ2：6-23）。真理を求める人は聖書の指示や聖書の精神にいつも従順であることを努めるものだ。

ボストンでのレストレーション（聖書回復）

チャールストン最後の年に、マサチューセッツ州レキシントン・キリストの教会の長老たちから私に説教者とキャンパス・ミニスターになってほしいと連絡があった。信者数が約30に減ってしまって、教会を閉鎖する可能性も考えおり、彼らは助けを求めて必死だった。私は5カ月間しぶっていた。私はもし来てほしいのであれば一人一人のメンバーは（当時のことばで）「完全にささげる者になる」と誓わなければいけないとその教会に告げた。1979年6月1日、金曜日の夜、30人の弟子になると決めた人たちが、ボブとパット・ゲンプルの家の居間に集まった。それは歴史的な晩だった。私たちのビジョンは、教会が大学生だけが完全に捧げるのではなく、ティーン、独身者、既婚者、そして高齢者も完全に捧げることだった。これは他の教会や今日まで私の経験した他のどの「動き」にも見られない革新的な考え方であった。パット・ゲンプルと私が最初の一か月で激しく議論し合ったことも、ミニストリーを建てる土台になった。エレイナと私、ボブとパットが誓いをしたことで問題はすばやく解決された。教会で最も影響を与えるこの2つの家族が、いつもキリストによって一つになることを誓ったのである。4人はベストフレンドになった。この一つになって互いに忠実にする態度で私たちは「神の家族」となり、教会と「神の動き」の土台となった。

どんな家族でも、たった一度の約束で完全に一つになるわけではなく、関係は一生の間に成長していくものである。サタンは常にクリスチャンを分裂させようと試み、不信感や不安な気持ちをいだかせる。エレイナと私がゲンプル夫妻との関係を通して学んだことは、教会内でいかにして家族の関係を築き、育てるかということである。（この家族の関係という聖書的考え方はリーダーシップを形成する際に大いに役だった。それは家族的関係によって各リーダーの持つ能力が最大に発揮されるからである。）今日まで、ゲンプル夫妻と私たちとの友人関係は勝利や平和だけでなく誤解や衝突もあったが、それらはすべて成長のためのプロセスになった。私自身も含めて人は摩擦を避けたがるものだが、衝突しても聖書によって解決すると関係を近づけることができる。（マタイ5：23、24；18：15-35）。御国の中でこの正直で率直な態度、また真にその人を思うという態度は貫かれ、何度も何度も繰り返されてきている。「家族」は一生続くもので、その関係によって嵐を乗り越えることができる。それは私たちは互いの

完璧さに頼るのではなく、イエスの愛と恵みという「岩」を人生の土台としているからである。[現在100以上の教会がある！一つ一つの教会にはそれぞれの違った雰囲気があるが、どの弟子がどの教会に行っても、人種や性、国籍の違いを超えて家族の一員のように感じるができる。私たち弟子たちが作り出している「神の動き」のなかで教会同士、また伝道者、長老、その他のリーダーたち相互間で自分を捨てることによって一致が保たれ、暖かさが溢れているのは他の教会には見られないことである。「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることを、皆が知るようになる。」(ヨハネ13:34-35)]

初めの頃、私は「First principles (基本的な教え)」(ヘブル6:1-3)と題して9つの聖書の学びから成るシリーズを作り上げた。これは教会のメンバーがこれらの学びを暗記し、人がクリスチャンになるよう教えることができるようになるのを目的としていた。最も影響を与えたのは「ディサイプルスシップ」であった。聖書から使徒11:26で明らかなことを教えた：救われている人＝クリスチャン＝弟子、つまり弟子でなければ救われることができず、真のクリスチャンになれないということである。私は意図的にこの点を強調し、レキシントン(後のボストン)・キリストの教会とすべての他のグループの間の、聖書上の違いをはっきりさせた。私はバプテスマを受けるためには、まず弟子になる決心をし、それからバプテスマを受けなければならないと教えた。私たちの教会のなかにもこの理解のないままバプテスマを受け、その後からイエスを人生すべての主とする決心をしたものがあつた。私はバプテスマを受けた後に悔い改めを理解したとしたら、それは聖書に沿ったものでないため、有効なバプテスマではないと教えた。聖書による確信を得てから、レキシントン(ボストン)教会のほとんどの人はあらためてバプテスマを受け直した。それらに：ダグラス・アーサー、ジョイス・(クロスビー)アーサー、リン・(ヘンプリー)グリーン、モアヘッド家族、フォス家族、クロスビー家族、スティーブ・ジョンソン(彼はボストンに着く直前にバプテスマを受けた)がいる。他に、ボブとパット・ゲンプル、ポールとヘレン・マクニール、リサ・ジョンソン、クリス・(ティミス)フークエ、ジム・ロイド、ドン・リー、そしてダグ・ブラウはバプテスマを受けなかった。彼らは、聖書を勉強してみて自分は聖書通りに回心していたと確信したからである。これらの聖書から得られた確信によって、私たちの「動き」にユニークである重要な特徴が形成されていった。それは真の教会は弟子のみで構成されているということである(ルカ9:23;ヨハネ4:1;使徒2:41-42)。

私は人が救われるためには、ボストンキリストの教会にはいるためのバプテスマを受けなければならないと、一度も考えたこともなく、教えたこともない。聖書は人は罪の赦しのためにキリストにつくバプテスマを受けなければならない、そして主はその人を主の教会に加えてくださるとはっきり教えている。(使徒2

： 36 - 47 ; ローマ 6 : 3, 4 ; 第一コリント 12 : 13 ; ガラテヤ 3 : 26, 27)。しかし、どんな教会、グループ、または運動であろうと、私たちのようにイエスがマタイ 28 : 18 - 20 で教えていること、つまり「人は弟子になる決心をしなければならない、そして救われるために罪の赦しのバプテスマを受け、聖霊を受けるということ」、を実際に教え、実行しているところを私は一つも知らない。人がバプテスマで新しく生まれ変わる時（テトス 3 : 5）、神のために何でもする、どこへでも行く、すべてを捧げるといふ、イエスの心と態度をもっていなければならない。バプテスマの後、弟子は成長し他の弟子を作りながらイエスの命令をすべて守るよう教えてもらおう。もしこれが聖書で神の教えていることだとすれば、私たちは「神の動き」である。

教会 4 年目に私たちがボストンのダウントウンで購入した建物が燃えてしまうという一つの興味深くかつ重要な出来事が起きた。私たちは皆がっかりしたが、神は私たちの行くべき方向を示していたにすぎなかった。聖書や教会史を勉強して、3 世紀になって初めて教会の建物が建てられたことがわかった。結局、建物は人々から集めたお金を消費しすぎて、教会の成長を遅くすると結論した。そこで私たちはボストンオペラハウスを毎週日曜日に借りて、週日の集会には家（家の教会）で集まった。こうして長老たちと私はお金を借金や利息の返済、建物購入のためではなく、人のために使おうと決心した。そのころ、私たちは正式に設立された「キリストの教会」としてはボストンで唯一の教会であった。私たちは聖書の中で教会名称を単純に都市の名前から取っていたことになって、教会名称を「ボストンキリストの教会」とした。後に黙示録 2、3 章から、聖書の中では一つの都市に一つの教会しかなかったということがわかった。つまり、一つの教会が弟子を倍增させれば、ついにはその教会はその都市全体をイエスの教えで満たすことができるわけである（使徒 5 : 29）。そのころ私たちは礼拝の形式を変えた。日曜学校や日曜の夜の礼拝をもはや持たないことにした（これらはアメリカで 1800 年代に始まった）。しかし私たちは個人的に毎日聖書の勉強をしたし、そして週日の集会では共に熱心に聖書の勉強をした。毎週日曜日の礼拝での 2 時間は、讃美歌、聖餐式、祈り、バプテスマ、交わり、そして聖書からの熱心な説教からなる祝いの時となった。

ボストンで最初の 6 年間にクリスチャンが 2000 人を超えるという過去に経験したことの無い数を達成したが、彼らのニーズを満たし信仰を維持するというチャレンジはおそらく一般の人には理解できないであろう。60 年代から 70 年代にキリスト教界では教会の「キリストのからだとしての生活」や互いに「羊の面倒を見る」ことに関する多くの議論や執筆がなされてきた。その影響で、クロスロードの活動でも、「祈りパートナー」と呼ばれ、各人が教会内で「友達」を選ぶシステムが生まれた。ボストンの教会では多くの新しいクリスチャンが誕生したが、この「祈りパートナー」だけでは十分に教会を導けないと感じ、私はこの「パートナー」という考え方を発展させて、「ディサイプルシップ・パートナ

一」というものを考えついた。このディサイプルシップ・パートナーの関係をにおいて、伝道者、長老、そして女性のカウンセラーは、話し合いと祈りの後で、霊的に年上でより強いクリスチャンが、若くまだ弱いクリスチャンを指導できるようにした。彼らは毎週会って、毎日コンタクトを取る（ヘブル3：12、13）ことにした。（当然、若い方のパートナーも強い方のクリスチャンに対してアドバイスをすることもある。健全な人間関係ならばいつもそうである。）私たちはまた聖書から、イエスは主にグループ（使徒たちや72人、ルカ10：1-24）を通して訓練したこともわかった。そこで、私たちも各々のクリスチャンがディサイプルシップ・グループに属するようにした。（このグループは通常、週日の集会のときに集まった。）これによって、各クリスチャンは自分のディサイプルシップ・パートナーに加えて、他のクリスチャンとも自然に関係を築いていけるようになった。何人かの教会成長専門家が調査研究したところ、一人の新しいクリスチャンが教会内で友人関係をもつ数が多ければ多いほど、最後まで神への信仰を持ち続ける可能性が高いとの結果が出ている。「ディサイプリング：倍増する教会」という雑誌でミルトン博士は、「良い人間関係をすべてのレベルの人たちと持っている新しいクリスチャンは、長い間クリスチャンであっても表面的で集中の無い関係しか持っていないクリスチャンよりも、クリスチャンとして成熟度が高い。」と語っており、これは興味深く、観察眼に富んでいる。前に話した私たちのシステムでは、教会の全員は自分のニーズを満たしてくれる人たちがおり、バプテスマを受けた後にも継続的に教えられ、自分自身で弟子をつくることによって大勢が、キリストにとどまる（マタイ28：20）。これらの聖書回復（レストレーション）によって、信じられないほどの論争が引き起こされたが、これまでバプテスマを受けた人がキリストにとどまっている割合は50%であり、これは他の「キリストの教会」の5倍以上の高さである。

世界改革

1981年から1982年の間に、主は私の心の中に世界に対するビジョンを与えてくださった。このビジョンへの情熱は宣教師だった人たちやサンセット説教学校の宣教努力に影響されて、さらに強くなった。しかし、私の計画は一つの都市に一つの教会、弟子のみによって構成される教会、という聖書の考えがあったために単純であった。世界の主要大都市に小さな弟子たちのグループを送り(church planting)、そこでリーダーや弟子が倍増すれば、その地域の国々の首都に彼らを送り込むことができる。そしてこれらの首都の教会がその国の他の都市にグループを送れば、第一世紀の教会(コロサイ1:6、23)と同じように一世代でその国中に福音を知らせることができるのである。これらの「カギ」となる教会は、その土台の上に世界中の教会が建てられるとの期待から「ピラー・チャーチ/pillar churches(柱となる教会)」と呼ばれた。ドナルド・マクガブラン博士は「現代の教会成長の父」(広義のキリスト教における)と呼ばれられているが、彼は私たち「ボストンの動き」を、早く成長している教会を通して全世界を伝道しようという計画をもっている点でユニークなものであると見ている。ジョン・ヴォーン博士は「今日の教会成長(Church Growth Today)」の編集長で、国際巨大教会研究所(International Mega-Church Research Center)の所長でもあるが、彼は最近私たちに手紙を送ってくれた。その中で彼は「伝道/弟子作りと教会の派遣設立の「動き」であるボストンキリストの教会は、この十年間において最も積極的で早く成長している世界的な『動き』の一つである。視点が国であり、世界であるという点で批判者たちでさえ無視することはできない。」と言っている。

1981年の終わりに、ダグラス・アーサーとジム・ロイドはイギリスのロンドンで教会を始めることを決心した。数週間彼らとその計画について話し合った後、私はマーティーとクリス・フークエ夫妻に来てもらって、彼らにシカゴで始める教会をリードしてくれないかと頼んだ。エレイナと私は彼らをチャールストンとボストンでミニストリーのために訓練していた。たくさんの祈りの後に私たち4人は、そのチームを、私が以前リードしていたチャールストンのミニストリーからの弟子たち、マーティーが当時やっていたノオザン・イリノイ大学のキャンパスミニストリーからの弟子たち、そしてセシルとヘレン・ウートン夫妻らシカゴ付近のメインラインの教会からの弟子たちで編成することに決めた。後になって、チームをさらに強力なものにするために、私は良き友人のロジャー・ラムにマーティーと一緒に伝道者としてリードしてくれるように頼んだ。シカゴの教会は1982年6月に50人ほどの弟子たちで始められたが、現在は毎週2500人が集まっている。私はダグラス、ジムそして彼らの勇気あるチームがイギリスに向かって出発した前の晩のことを決して忘れることができない。それはゲンプル家の居間での感動と涙で溢れた祈りの時であった。神は信仰の祈りに応えてくださった。ロンドンの教会は1982年の7月に、宣教チームとしてポスト

ンから送られたたった8人の弟子によって始められたが、神の祝福によって、現在毎週1500人の人が教会に集まっている。(これは合衆国の外で最も大きいキリストの教会である。)また第一回のボストン世界宣教セミナーが行われたのも1982年でこれには1100人が参加した。

1983年、3つめの教会を1800万人の失われた人たちのいる大都市、ニューヨークに設立するため、スティーブとリサ・ジョンソン夫妻をリーダーとする18人の弟子がボストンから送られた。現在、ニューヨークでは毎週日曜日にジャビッツセンターで約4000人が集まっている!1985年には聖霊の導きによりボストン教会からカナダのトロントと、ロードアイランドのプロビデンスにミッションチームが送りだされた。1986年の後半にはヨハネスブルグにチームが送られた。これは設立当初から人種の差別が無かったという点で歴史的であった。この年には同時にフランスのパリとスウェーデンのストックホルムに初めて非英語圏の国にチームが送られた。リーダーはそれぞれフランクとエリカ新谷、アンディーとタミー・フレミングであった。

イエスの「すべての国に福音を宣べ伝える」という大命令は当初は大きすぎる課題だった。しかし、神の力と「弟子をつくり、その弟子がさらに弟子をつくる」という神の唯一の計画を実行に移して行くことですべては可能である!私は、もし私たちがこのイエスの命令を実現しようとするならば、ダグラス・アーサー、スティーブ・ジョンソン、マーティー・フークエといった立派な伝道者を育てたようなボストンでの訓練が世界中の何百もの教会でなされなければならないことを確信した。しかし、どの「キリストの教会」も伝道者の「選任」または「任命」する定まった方法をもっていなかった。私たちは、伝道者になるための最善の方法はフルタイムで訓練を受け(ルカ5:1-11)、その人のようになりたいと思う伝道者とともに歩み、その人のイエスに倣う姿を真似る(1コリント4:16、11:1)ことであるという確信を得た。私たちはフルタイムで訓練を受けた人をインターンと呼んだ。何ヵ月か経って(何年かかかる場合もある)そのインターンのいるミニストリーの人々が、そのインターンが神様と共に歩むこと、他の人がよりイエスに近づけるようにインパクトを与える能力があることに信頼を持てるようになったとき、その人は正式に伝道者に任命される。その若者を訓練した伝道者がその人に手を置き、神と教会の前で伝道者としての任務を託す(IIテモテ3:10-4:5)。イエスの計画の中にある知恵のすばらしさは、このプロセスはどこでも、どの言語でも、どの文化の中でも修得され、反復されることができるということである。(現在、すべての大陸に合計1000人以上の男女がフルタイムでミニストリーの訓練を受けている。そして西暦2000年までに世界中のすべての国々で弟子だけの教会ができるように計画されている!)

パット・ゲンプルとエレイナ・マックキーンによって私たちの「神の動き」のもう一つの側面で聖書回復(レストレーション)がなされた。それは、新たに女

性リーダーの訓練と女性クリスチャンのディサイプリングの仕方が定まったことである。そのことにより、ダイナミックな女性ミニストリーが形成された。リーダーになる機会が与えられたことによって姉妹が励まされ、ノンクリスチャンの女性も「神の動き」に魅力を感じるようになった。多くのメインラインの女性は、自分たちの役割は交わりの時の食事を用意するだけの二流のものだと思っていた。その結果、真の目的を持たないまま多くの女性は怠惰になり、クリスチャン生活に失望していた。教会で育った女性の中には、伝統的な役割に反発したり、逆にこの世の物に人生を捧げたり、教会から完全に離れてしまったものもいた。それは彼女らが自分の人生と神様から与えられた才能によって何らかのインパクトを与えたいと望んでいたからである。パット、エレイナそして私は聖書を一緒に勉強して、神は女性に対して他の女性を指導するように命じていることを理解した。聖書が女性の役割は男性の役割とまったく同じ、つまり弟子を作ることによって世界を変えること、であることが彼女らに理解できたため、女性はすべてを教会に捧げるようになった（ローマ16：1、2、3、4、6、12、13、15）。

私たちの教会では年老いた女性を除いてすべての女性は他の女性によってディサイブルされている（テトス2：3-5）。これによって男女関係の誘惑や緊張が生じるのを避けることができ、女性は男性よりも女性のニーズを見抜けるので効果的なディサイブルができる（テトス2：1-8）。私たちは聖書から、長老、執事、及び伝道者の職には男性のみがつかうことができると理解している（1テモテ3：1-13、テトス1：6-9）。私たちは女性のリーダーを「婦人カウンセラー」と呼んでいる。私たちのすべての教会において、女性ミニストリーは女性のリーダー（通常リーダーを務める伝道者の妻）によってリードされ、その女性リーダーは男性に対して何の権威も有しない（1テモテ2：12）。神はこれらの原則を女性を完全に満たすために与えてくださったので、それを実行している私たちの女性ミニストリーほど、力強く輝き、才能溢れる女性グループは他にはないと思われる。

主は一人、信仰は一つ、バプテスマは一つ

1983年以降、80年代を通して他の「キリストの教会」から多くの人々、特にリーダーたちが弟子となり、教会を立てる訓練を受けるためにボストンの教会、またはボストンの教会によって設立された教会に移動した。彼らは聖霊の導きによって、かつてない成長を遂げたボストンの教会やボストンの教会によって設立された教会を見て、神のわざを賛美した（使徒9：31）。メインラインの「キリストの教会」（Church of Christ）、「キリストの教会」（Christian Church）、クロスロードのキャンパスミニストリー系の教会、ミルトン・ジョーンズのキャンパスミニストリーの教会、ミズーリ州（ジョン・ウイルソン・トム・ジョーンズ）のキャンパスミニストリー、バプテスマの影を受けた教会（オクラホマ州タルサのガーネットロード、ウエストバージニア州のウイリアムズタウン、そしてインディアナ州アンダーソンのリンドバーグロード）、スタンレーシップに影響された教会、ワンカップ教会、反日曜学校教会、アンチ・コーポレーション教会、そして黒人のキリストの教会等から多くの男女が移った。キリストの教会系大学の学生も移った（ハーディング大学、ハーディング宗教大学院、オクラホマクリスチャン大学、アビリンクリスチャン大学、国際聖書大学、グレートレイクス・クリスチャン大学、ノースイースタン・クリスチャン大学、そしてテキサス州のサンセット、プレストンロードの牧師養成校）。これらのさまざまなグループの間にはいくつかの教義的相違があり驚いたが、ボストンの教会では長老とその妻、そしてエレイナと私は、聖書を使い、また彼らと一つの目的に向かって手に手を取って働くことによって、これらの教会のリーダーたちが一つとなれるようにあらゆる努力をした。（1コリント1：10、ピリピ1：27）。どのようなバックグラウンドを持っていようとも、その人が真に神を探し求めているのなら私たちは歓迎し、受け入れてきた。聖書回復（レストレーション）を通して革命を起こして行こうという「神の動き」に参加することは今なお可能であり、今日ほどその門戸が大きく開かれている時はない。

これらのリーダーたちはボストンまたはその設立した教会に移り、仕事をしながらインターンに選ばれることを待つか、すぐにインターンとして採用された。しかし、すべての人が（経験や聖書の知識がどれだけ豊富であったとしても）若いクリスチャンとまったく同じ訓練を受けなければならなかった。たとえば、誰もがファースト・プリンシプル（信仰の土台のようなもの）クラスを受けるよう勧められた。私たちは、彼らが教会をいかにして立てるかを真に学ぶ前に、まず過去の伝統や間違った概念を取り去る必要があることがわかった。ボストンに移って来た人もボストンの教会でバプテスマを受けた者とまったく同じ訓練を受けることを要求されたし、誰であっても教会のリーダーとして送り出される前に、その人はボストンの教会またはその設立した教会において、教会を立てることができる人であると認められなければならなかった。

これらの動きの中で1985年にはチャック・ルーカスが個人的な霊的理由によってミニストリーを離れた。それによって彼の影響した教会で多くの人々は従うべきリーダーシップを失った。この結果クロスロードのキャンパスミニストリーの動きは力を失っていった。約50の直接関係のあった教会はいろいろな違った教義を持つようになり、分裂していった。メインラインの「キリストの教会」には、教会は他の教会から独立しているべきであるという考え方があり、またボストンでは独自に聖書回復（レストレーション）が進められた結果、時が経つにつれて、私が以前持っていたクロスロード教会でクリスチャンとなった人たちとの関係は薄くなっていった。これに気づいた私はその後2年間集中して、これらのキリストの教会のキャンパスミニストリーのリーダーたちに働きかけた。その結果、多くの者がボストンに移動したが、その中でも特記すべきは、サム・レイングとトム・ブラウンである。彼らの教会では弟子であるクリスチャンは一部だけであり、悩みを抱えていた。私はカリフォルニア州のバークレーにトムとその家族に会いに行ったことをはっきり覚えている。彼は「私の人生には助けが必要だ。もし可能であれば、私と私の家族、バークレーの教会がボストンの教会に『接ぎ木』されることを望む。」と懇願した。またサムとその家族に会うためアトランタに飛び、そこで涙を流して友情を確かめ会ったことも忘れられない。彼は当時がっかりしていて、ミニストリーを離れることを考えていた。神はこの時を使って、彼にアトランタ地区全域を伝道できる一つの教会を立てるビジョンを与えられた。サムがボストンに移る直前に彼が仕えていた教会は分裂した。弟子になりたいと思う者たちはアトランタキリストの教会の土台となった。次のようにパウロが言っている「．．．お互いの中に仲間割れがあると聞いています．．．だれが適格者かははっきりするためには、仲間争いも避けられないかもしれません。」（1コリント11：18-19）。トムとサムは1987年の夏にボストンに移り、ただのインターンとして教会を立てる訓練を始めた。私は他のクロスロード教会でクリスチャンになった人たち（多くは私の友人であった）をも「ボストンの動き」に招き入れようと努力したが反発された。この時、クロスロード教会はアトランタの教会を設立したことと、それに関してアル・ベアードと私が聖書から再発見して教えた内容を理由として「ボストンの動き」から関係を絶つことを公に宣言した。（今日クロスロード教会は出席者は400人以下であり、メインライン「キリストの教会」の一つにすぎない。）この訓練の時にも、長老、伝道者と私は宣教の使命をおろそかにすることはなかった。

他の「キリストの教会」から弟子の教会を作るための訓練を受けるために移ってきたリーダーたちの多くは、彼ら自身が弟子として正しくバプテスマを受けていなかったことを認識し、世の中の的にみればバプテスマを受け直した。神の目から見れば、彼らはイエスキリストにつくバプテスマを受けた（使徒19：1-5）。特記すべき人たちは次の通りである。Nick Young, Preston Shepherd, Willie Flores, John Porter, John Bringardner, Jerry Jordan, Reese Neyland, Bill Hooper, John Mannel, Dave Peden, Mike Taliaferro, Steve Kinnard, Steve

Sapp, Steve Brown, John Lusk, Curt Simmons, Mike Rock, Scott Green, Grant Henley, Ed Powers, Andy Fleming, Gordon Ferguson, Tom Jones, Jeff Tabor, Ed Heinlein, Kevin Robbins, Roy Larson, Dr. Richard Rheinbolt, Tom McCurry, John Reus, Gregg Marutzky, Gregg Metten, Barry Mahfood, Mike Leatherwood, Sonny Sessions and Joe Garmon. またバプテスマを受けたとき、弟子（当時そのことばではなかったが）となる決心をしていたということでバプテスマを受け直さなかった者もある。その人たちは以下の通りである。Dr. George Gurganus, Sam Laing, Cecil Wooten, Jim Blough, Marty Fuqua, Dr. Marty Wooten, Ryan Howard, Henry Kreite, Joe Woods, Jess Asper, Ed Townsend, Jimmy Allen, Jr., Jimmy Rogers, Dave Eastman, Tom Brown, Dave Weger, Phil Lamb, Bruce Williams, Randy McKean, Mike Fontenot, Douglas Jacoby, Ron Drabot, Mark Mancini, Wyndham Shaw, Gerry Frederick, John Partington, Sam Powell, Tom Marks, Steve Gooch, Tim Huffman, Martin Bentley, Camaron Corr and Dr. Jerry Jones（彼は後にボストンの動きから去った）。訓練のためにさらに多くの人々がやってきたが、中には「厳しい教え」を「受け入れる」ことができず、苦々しい気持ちを持って後に背を向けて離れていったものもある（ヨハネ6：60-66）。

残されていた者が帰ってくる

1986年末期、多数のいろいろな「キリストの教会」のリーダーたちがボストンの教会やボストンの教会が設立した教会に移ってきたのに伴って、私たちは、弟子を倍増させるためにいかなる代価もおしまないと決心した教会であれば、どのタイプのメインライン教会、どのタイプのキャンパスミニストリーでも、悔い改めの働きかけをすることとした。まず、私たちは関心を持っている教会の伝道者のリーダーに訓練を受けるためボストンへ移るように依頼し、代わりにその教会にボストンで訓練された伝道者を派遣した。引継転換の初めの数週間でメンバーは一人一人、バプテスマのときにしたイエスの弟子になるという最初の決意を再確認するか、イエスの弟子としてバプテスマを受けるか、または教会を去るか、のいずれかの選択をしなければならなかった。長老たちがバプテスマを受けることもあった。アル・ベアード、ロジャー・ラム、ジョージ・ハイブズ、ロン・ブラムリーはそうである。このことに関して、教会外のある人たちは、長老がバプテスマを受けたばかりであり、信仰に入って間もないものであると見なして批判した。聖書は、「信仰に入って間もない人が長老になるべきではない。高慢にならないためである。」（1テモテ3：6）と教えている。バプテスマを受けた長老たちについては、すでに長老として奉仕していたし、バプテスマを受けることで自らを謙虚にするのであるから、彼らが高慢になることはまず有り得ない。したがって、長老の資質有無に関して問題があったとは思えない。

このような急激な変化の後、これらの教会は私たちがミッションチームを送って立てた教会と違いはなく、やはり急速に成長した。これらの教会は弟子のみで構成されていた。私はこの種の努力をネヘミヤ記のエルサレム城壁の修復にちなんで、「リコンストラクション（再建）」と名付けた。教会名称も都市名や地域名に合わせて変更した。それは何よりもまず聖書的でありたかったからである。聖書ではその都市の名前が教会の名称に使われていた。（例えば、エペソの教会、黙示録2：1等）。もう一つの理由は、弟子たちにその地域全域を伝道するビジョンを与えるためであった。1986年12月、ジャマイカのキングストン市での最初の教会リコンストラクションを行ったが、フィルとダナ・ラム夫妻がエレイナと私の大きな助けになってくれた。この経験を通してラム夫妻と私たちは完全に一つとなった。私は非常に暑く湿度の高い金曜日の晩に、キングストンにあった弱い教会の70人ほどの人たちに説教をしたことをまだ覚えている。その説教のタイトルは「城壁の修復」で、ネヘミヤ記の1-6章を使ったレッスンだった。説教の後、私は説教台の前に一本の線を書いて、「もしあなたがイエスの弟子として新生「キングストンキリストの教会」のメンバーになり、キングストン全域、ジャマイカ、そしてカリブ海の国々をいつか伝道しようとするこのピラー・チャーチ（柱となる教会）で役割を担いたいのなら、前に出てください。」と言ったら、なんと43人の人が応えくれた！すぐにその後、私たちは男性と女性のグループに分かれて、心を開き罪を告白し合った（ネヘミヤ9：1-3；マタイ3：1-6）。翌日までには43人全員が大きな喜びに満たされた。そしてフィルが「聖霊の力」について説教した。彼はクリスチャンに対して、人間を取る漁師になるという目的を持つこと、そのためにまず翌日教会に友だちを連れて来ることをチャレンジした。その結果、日曜日には200人以上が礼拝に出席した！

キングストンの教会はボストンからの5人の若いリーダーたちを含めて48人の弟子たちで始まった。初めの1年で115人がバプテスマを受け、2年目には200人が受けた。キングストンの教会は現在毎週1000人以上が集まっている！その後1987年の夏、私はグリーン夫妻とキム夫妻と共に、悩んでいたパークレー教会をサンフランシスコキリストの教会に再生させることに携わった。現在神の祝福によって毎週1400人が教会に出席している！その12月、ウィリアムズ夫妻と私はサンディエゴのリコンストラクションをし、今この教会には2500人近くの日曜礼拝出席者がいる！ロンドンではシドニーをリコンストラクションし、またシカゴの教会はアメリカ中西部の7つの教会をリコンストラクションしたことも重要な出来事であった。

私たちがこれらの教会を立てる時、伝統的な「キリストの教会」を支配していた聖書的でない教会運営システムの誤りを指摘した。彼らは、各教会は独立しており、他の教会から干渉されず自治を守るべきであると信じていた。私たちは彼らに聖書から、教会はいかに人的関係を通してつながっていたかということ、事

実、伝道者たちは彼らの影響の及ぶ地域にいた他の伝道者を指導していたことを示した。（聖書には「自治」という言葉は無い。）また、主伝道者は長老たちと共に働いたし、ほとんどの場合は長老たちを指導し、その教会内の職務を果たせるようにディサイプルしたことも教えた。（テトス1：5；1テモテ5：17）。結局、私たちは世界は一つの兄弟関係で結ばれるべきことを説いた（1ペテロ2：17）。それは独立的自治教会は聖書の命令と精神に反するものだと分かったからである。この自治教会の教えは教会間で互いに学び合い、成長することを妨げ、他の教会に対して批判的な態度を生んだりして、世界的影響を与えることとは無縁のものであった。今日、世界の地域ごとにまとまった教会群を指導している伝道者は多数いる。例えば、ゴードン・ファーガソンは、最近ヨーロッパにあるいくつかの教会を回り、2週間に渡ってローマ人への手紙を教えた。

イザヤは「残り者だけが帰って来る」と書いている（イザヤ10：21-22）。聖書を通じて、神は時々忠実な数少ない者たちを選び、忠実でない人たちから分離して、純粹に神に仕えさせた。それによっていつもその時代の「神の動き」が始まった。ノアと彼の家族、アブラハムとサラ、ギデオンと300人、ダビデと勇敢な兵士たち、ネヘミヤとエルサレムに残っていた者たち、そして最後に、第一世紀に最初のクリスチャンになったユダヤ人たちなどたくさんの例がある！たくさんの「キリストの教会」（Church of Christ, Christian Church）のうち助けをまったく求めない教会について、私たちがその教会の真の弟子たち（または真の弟子になりたい人たち）に働きかけて、ボストン関連教会（時に「Multiplying ministry Churches / 倍增する教会」とも呼ばれる）に移るように勧めることは、神に対する義務であると感じた。したがって、私たちは意図的に「残された者たち」を「拾い集め」て誰の目からも明かな現代の「神の動き」に導き入れ始めた。

長期にわたって一生懸命働き続けた結果、私は疲れきって、1986年のクリスマスに病気になった。病気でベッドに横たわって思ったのは、私も他のクリスチャンも祈りを通して神に頼らなければならないということであった。1月の教会全体のワークショップで私が強調したのは、私も教会も悔い改めて神に近づかなければならないことだった。私たちの他のすべての教会でもこれを教え始めた結果、靈的なリバイバルが起きた。私たちはクリスチャン生活のきびしさに耐えるために聖書、祈り、断食、聖霊、神との個人的な関係について集中することに努めた。新谷フランクとエリカはこの時大きな慰めだった。彼らと祈っていた分かったのは彼らは祈りのなかでサタンとその手下に対して攻撃的に戦うということであった。彼らは天の父に向かって夜明け前から祈っており、私たちすべての兄弟姉妹はこれに倣うべきである。（マルコ1：35）

この頃、「キリストの教会」の中でも影響力のあるガーネット・ロードやサンセット、そして「キリストの教会」で最も有名な「クリスチャン・クロニクル」

誌が私たちを「キリストの教会」の群れの一部と見なさなくなった。争点は、「誰がクリスチャンか」、「各教会の独立自治」、「再洗礼」であった。私たちの教会の成長が、彼らの教会が成長していないことを浮き彫りにさせたため、彼らは嫉妬心から私たちを切り離したに違いない。(ヨハネ 3 : 20、12 : 42, 43)。私たちに対する批判は「愛攻め」、「洗脳」、「異端」といった感情的なものであった。聖書はクリスチャンは迫害に驚いてはいけないと言っている(1ペテロ 4 : 12)。イエスも同様に「悪霊に取りつかれている」(ヨハネ 10 : 20)、「神を冒瀆している」(ヨハネ 10 : 33)と呼ばれたし、自分の家族からさえ「気が変になっている」(マルコ 3 : 21)と言われた。イエスはピラトのもとで、「惑わす者」、「税を納めることを禁じた者」、「王と自称したもの」として訴えられた。これらの三つの訴えのうち二つは偽りであり、一つは半分うそである(ルカ 23 : 2)。初代教会でさえも「この分派については、至るところで反対があることを耳にしているのです。」[異端](使徒 28 : 22)と非難されている。私は「キリストの教会」からのこれらすべての非難に対して「あなたがたが救っている魂はどこにあるのか。あなたがたが建てた教会はどこにあるのか。」とチャレンジしてきた。私たちは「実を見れば[実の無いことで]彼らを見分けることができる」(マタイ 7 : 20)と信じている。このような事情から、私たちの教会の幾つかは不必要な批判を避けるために「キリストの教会」から他の聖書的な名前(Christian Church や Church of God)に変えた。神学者たちはこの時を歴史上特記すべきものと見なしている。すなわちジョン・ヴァーン博士が彼の『Church Growth Today』という刊行物の中で、初めて他のすべての「キリストの教会」と区別して、ボストンファミリーの教会を「国際キリストの教会(International Church of Christ)」「ボストンの動き(Boston Movement)」と呼んだ。

1987年に私の親友のマーティー・ウートウン(私は彼とハーディング神学大学院で知り合っていた)に新しい雑誌の編集委員になるように依頼された。その雑誌の目的は専門的であると同時に若いクリスチャンのためにもなることを目的としていた。雑誌の名称は「Biblical Discipleship Quarterly」と呼ばれ、(後に「Discipleship Magazine」と変更された)その内容は啓発的な記事、ニュースレポート、インタビュー記事であった。1988年にデンバー教会をリストラクションした後、私は彼にボストンに移って訓練を受けるよう頼んだが、その時私たちは Discipleship Magazine の新しい目的とビジョンについて話し合った。そしてこの雑誌がボストンをベースとして「ボストンの働き」のための公式な記録及び情報誌となるべきことに合意した。(それまではボストンの教会の週報がその役割を果たしていた。)後にマーティーが自分のミッションはドイツと東ヨーロッパを伝道することであるという確信を得たため、私はロジャー・ラムに編集責任者になるように依頼した。(マーティーとキャシー・ウートウンは神に与えられた地ですばらしい働きをしており、既にベルリンとミュンヘンに2つの教会を設立し、これらの教会はめざましく弟子を増やしている。今年この雑誌の名前

を「Upside Down」と変更したが、この名称はスティーブ・ジョンソンとシャーウィン・マッキントッシュによって「使徒の働き」をもとにして書かれたミュージカルのタイトルから取ったものである。これは私たちの「動き」の象徴であり、ゴールである。そのゴールとは福音で世界をひっくり返す（Upside Down）ことである（使徒17：6）。1993年からジェス・アスパーを責任者として、「Upside Down」のスペイン語版を出すことについて、私たちは祈りつつ検討している。フィル・ラムは中南米の配布の担当者になる予定である。

1987年から1988年にかけて、以下の教会がボストンから送り出された。メキシコシティー（リーダーはフィルとドナ・ラム。この教会の働きの記録はアンドルー・ジャンバルバによって『Bent on Conquest』という本にまとめられた。）、ホンコン（中国伝道の拠点。リーダーはスコットとリン・グリーン）、ボンベイ（ジムとドナ・ブラウ）、カイロ（ボブとローリー・トランチュルの果敢な勇気によって回教国の中心に立てられた。）である。そして新谷夫妻は東京でのジョージとアイリーン・ガーガナス夫妻の働きに加わった。ガーガナス夫妻は第2次世界大戦の直後に東京にメインラインの「キリストの教会」を建てた。10年後、彼らはアメリカに戻った。ジョージは異文化間コミュニケーションの分野で博士号を取ってから、ハーディング大学でミッションプログラムを開始した。後にはアピリンキリスト教大学でミッションプログラムを担当した。彼が大学を退職してから2年後、私はジョージとアイリーンにボストンに移るよう頼んだ。それは彼らには神に与えられた役割が残されていると確信したからである。彼らはエレイナと私の神の家族の中で、霊的なおじいさん、おばあさんの存在になった。ボストンで訓練を受けた後、彼らは70才という高齢にもかかわらず、日本のミッションフィールドに戻る決心をした。このことは世界中の兄弟姉妹を鼓舞した！新谷夫妻が東京に移って、東京の小さな教会のリコンストラクションをした時、ジョージはその手伝いをした。そしてその教会は東京キリストの教会となった。リコンストラクションの直後にウォールストリートジャーナルは日本を「宣教活動のエベレスト山」と呼んだ。それは日本人の90%以上が無神論者であるからである。聖霊の働き、神の恵みとイエスの十字架を宣べ伝えること通して、これらの主要教会がそれぞれの地で前代未聞の成長を成し遂げた。

教会のリーダーたち

1988年に、熱心に祈り、断食をし、聖書を研究し、そして私に近い兄弟と話し合った後で、私のミニストリーで「少数のひと」に専念すべきであるとの確信を得た。（出エジプト記18：13-27、11サムエル23：8-39、ルカ6：12-16）。重要な資質として「神との関係」、「ミニストリーで与えているインパクト」、「ダイナミックで霊的な妻、そしてすばらしい結婚関係を築いていること」を考慮した。結局のところ教会はリーダーの霊的状态を上回って成長することはない（ルカ6：39、40）。また「神の動き」の中では関係を通してリーダーシップを発揮するので、私が個人的に訓練し、ディサィプルしたことがあるということをも「少数のひと」を選ぶ重要な基準とした。最後に徹夜で祈った結果以下の兄弟に私のエネルギーを集中することとした。また彼らに責任地域を与えたが、これによって全体として世界伝道をも一つの世代で実現することができる。彼らをワールド・セクターリーダーと呼ぶ。

ダグラス・アーサー	英連邦、スカンジナビア
スティーブ・ジョンソン	アメリカ東部、カリブ海、アフリカ
ランディ・マッキーン	ニューイングランド、ヨーロッパ
フィル・ラム	中南米
フランク・キム	極東
スコット・グリーン	中国
マーティ・フークエ	アメリカ中西部、カナダ、旧ソ連
アル・ベアード	中近東
ボブ・ゲンプル	HOPE ワールドワイド

（貧しい人々のためのプロジェクト）

（当初選ばれたワールド・セクターリーダーのうちトム・ブラウンは個人的な霊的問題によってフルタイム・ミニストリーを離れた。）「ボストンの動き」の初期は長老とその妻（アルとグロリア・ベアード、ボブとパット・ゲンプル）、エレナと私が重要な決断を下していた。「ボストンの動き」が世界に広がった今はワールド・セクターリーダーが集まって合意決断をし、教会の将来の方向付けをして行く。ワールド・セクターリーダーの集まりは通常1年に2回行われる。またすべての教会の霊的一致を保つため、今年の夏にボストンで初めてワールド・ミッション・リーダーシップ会議が行われる。すべての主伝道者、長老、地元リーダー、アドミニストレーター、そしてその妻たちが参加する！私はスコット・グリーンが「神の動きの中で最大の障害は外部からの迫害ではなく、内部の不一致である。」と説教したことを覚えている。これは初代教会のチャレンジでもあった。（使徒15、エフェソ4：4-16、1コリント1：10-13）

すべてのクリスチャン、特にリーダーは自分の人生を助ける人を必要としてい

るが、エレナと私は結婚の関係、家族の関係で長年に渡って、年上であるペアード夫妻とゲンプル夫妻の助けを得、ディサイプルを受けている。私に一番近いのはリーダーのなかでも最も経験豊かで信頼のおけるダグラス・アーサーとステイブ・ジョンソンである。ダグラスとステイブはいつも私の聞くべきことを正直に言ってくれている。彼らはいつも「神のためにベスト」であることを考え、優しさと確信をもってこれをしてくれるのである。真の弟子はまずイエスに忠実にすべきであって人にではない。

1989年に私はワールド・セクターリーダーにそれぞれ自分のセクターで法律関係、管理運営、財務を蓋的な判断力を持って担当できるアドミニストレーターを指名するように依頼した。それによってワールド・セクターリーダーが祈りと御言葉の奉仕により専念することができるようになるためである。私は経験豊かであり、高潔なセシル・ウートゥンにワールド・セクターアドミニストレーターの働きを取り仕切るよう依頼した。セシルは第二次世界大戦で2つのパープルハーツ勲章を受賞し世界的企業であるCBIインダストリー社の元常務であった。現在のワールド・セクターアドミニストレーターはトム・マッカーリー、ジム・ブラウ、ビビアン・ヘインズ、ダン・ベyson、クリス・ジェイコブス、ドン・リー、ジェーム・ディアンダである。セシルも他のアドミニストレーターたちも私たちの教会が非難されることがないように尽力し、500人以上の教会についてはディロイト・トゥーシュ、プライス・ウォーターハウス等の外部監査を受けさせている(Ⅱコリント8:20-21)。会計書類とどのように資金を使ったかの記録はすべてのクリスチャンにがいつでも閲覧できるようになっている。また1989年にはボストン教会は世界に7つのミッションチームを派遣した。特筆すべきはサムとジェリー・レイングによるマイアミ/フォートローダーデイルの教会のリコンストラクション、ユエル夫妻によるワシントンDCの教会設立、ブラウン夫妻によるロサンゼルス教会設立である。1989年の夏には最後のボストン・ワールド・ミッション・セミナーが開催されボストンガーデンは世界中から1万2千人の弟子たちが集まった。

神の計画により私たちがボストン教会に奉仕した10年の間に教会は前例のない成長を遂げた。前身であるレキシントン教会は1979年6月の直前の3年間にたった2人のバプテスマしかなかったが、教会全体がすべてを捧げるという基本的な考え方を取り戻すことによって神の力があふれ最初の年に103人がバプテスマを受けた。さらに多くの聖書からの教えを回復し、その通りに人生を変えて行ったことで、教会は倍増を重ね、現代の「キリストの教会」では経験したことの無い成長を見ることができた。(過去数十年間の間で最もダイナミックな「キリストの教会」でも年間200人から300人のバプテスマしかなかった)。私たちの教会では2年目に200人、3年目に256人、4年目に368人、5年目に457人、6年目に679人、7年目に735人、8年目に947人、9年目に1424人、10年目には1621人がバプテスマを受けてクリスチャン

になった。日曜日の礼拝はボストンガーデンで行われ出席者数は5000人に達しようとしていた。教会はニューイングランドの長い教会史のなかで最も大きな教会となっただけでなく、現代の世界中の「キリストの教会」なかで最も大きな教会となった。私たちにとって深い関係を築いてきたボストンの教会を去ってミッションフィールドに出て行くのはかなりつらいことではあった。しかし、今の教会リーダーであるアル・ベアード、ウィングダム・ショウ、ゴードン・ファーガソンとその妻たちが、主伝道者であるランディーと主婦人カウンセラーのケイ・マッキーンのリーダーシップのもとにダイナミックなチームワークを発揮していることは私の大きな喜びである。神はこのリーダーたちを祝福し、現在ボストンの教会は以前にも増して大きくなっている。

批判者たちが言っているのとは逆に、私たちは学術、仕事などで常に弟子として人生を卓越したものにするように強調してきた。このことはボストンで多くの優秀な人がバプテスマを受け、後にフルタイムの教会リーダーとなったことに表れている。以下に名前をあげる。新谷フランク (magna cum laude の優秀な成績でハーバード大学を卒業)、Bob Tranchell, Russ Ewell, David Graham, Tim Anderson, Luis Martinez (ハーバード大学), Dr. Jaime DeAnda (マサチューセッツ工科大学[MIT]で博士号取得)、Andrew Giambarba, エレイナの兄弟の George と Peter Garcia-Bengochea, John McGuirk (ボストン大学野球部キャプテン), Brian Scanlon (ハーバード大学), Mo Adame (ハーバード大学), Tom Gurrentz, Dr. Mo Bishara (ハーバード大学医学部), Steve Chin, Dr. Dave Traver (ボストン大学医学部), Herve Fleurant, Chris Reed, Mark Templer (MIT), Dr. Doug Webber (エール大学医学部), Eddie Armes, Wilner Cornely, Damien Jean-Baptiste, Javier Amaya (ブラウン大学, IBM), Frank Hines (ハーバード大学), Dean Farmer (博士号、ブラウン大学; 博士号取得後の研究、ハーバード大学) 等がいる。この他にもボストンによって設立された教会の中でバプテスマを受け、現在りっぱな教会のリーダーになった者がいる。そのうちの多くは地元出身者である。Mohan Nanjundan, Dr. Peter Swaby, Onyechi Ouguagha, Fred Scott, Chris McGrath, John Louis, Tan Chio Chang, Anthony Galang, Gustavo Sassano, Cory Blackwell, Jeff Sachinger, Mike Vassallo, Dave Tebbutt, Caesar Lopez, Josue Ortega, Christopher Lindfeldt, Franck Descotes そして Misha Rakovschik 等である。これ以外にフルタイムで働くすばらしい女性たちがおり、何千人もの仕事、家庭、信仰において卓越した社会人クリスチャンもいる (II コリント 8 : 7)。

ボストンの教会は現代の「神の動き」におけるエルサレムであり、伝道者、婦人カウンセラー、ミッション・チームの訓練センターでもあった。ボストンから送り出された人たちによって、聖書の「使徒の働き」の中で起こったと同じように訓練センターの数も倍増して行った。神の導きにより、海外で弟子の数が素晴らしく倍増して行ったことは感動的な出来事であった。マイクとアンブリジット・Taliaferro はニューヨークでスティーブとリサ・ジョンソンによって訓練されサンパウロの教会設立のために送り出された。その後スティーブはマイクにアフリカの過去3年神は彼らの働きを祝福された。アフリカの教会はヨハネスブルグに一つしかなかったが今や大陸の方々に教会がある。アビジャン、アッカ、ケープタウン、ハラレ、ラゴス、ナイロビ、ウンタタが加わって8教会となった。今や、これらの教会を合わせた日曜日の礼拝出席者数は3500に達しようとしている！主は第三世界のヒンズー教国、インドでの宣教活動も祝福してくださっている。10億人もの人々に福音を伝えるという大ミッションのリーダーはすばらしい兄弟姉妹であるモハンとヘレン・ナンジュダンで彼らはロンドンでダグラスとジョイス・アーサーによって導かれ、訓練された。柱となるべく設立されたボンベイの教会とロンドンの教会によってつくられたバンガローの教会からデリーとマドラスにも教会が設立された。今年の夏には1500万もの人が住む「喜びの都市」カルカッタに教会ができる予定である。アーサー夫妻によって訓練されたすばらしいリーダーは他に、シンガポールの1000人の教会をリードしているルイ夫妻、シドニーのフォンテノット夫妻、ロンドンのマッグラス夫妻、スコット夫妻らがいる。ヨーロッパでは、パリの教会が困難な状況に直面していた時に、完全に信頼できる私の兄弟であるランディーとその妻であるケイに弟子たちの土台をつくり直すように頼んだ。彼らはブライアンとエイドリアン・スキャンロン夫妻に教会を任せてボストンに戻ったが、その後も教会は勝利を重ねている。現在パリの教会では日曜日の朝には400人が集まり、ブリュッセルの教会のミッションチームも送り出された。この他にヨーロッパにはアムステルダム、ミュンヘン、ベルリン、ミラノ（リーダーはトランチュエル夫妻）に教会がある。極東では新谷夫妻によって東京から大阪と仙台にミッションチームが送られた。新谷夫妻はガラング夫妻もディサイプルしているが、彼らは設立後わずか3年のマニラの教会を日曜出席者1000人となるまでに成長させた！仏教国の中の都市であるバンコクやソウルにキリストのための侵入路がしっかりと築かれているのは驚くべきことである。また、中南米ではフィルとドナ・ラムはメキシコシティーチームの当初の13人のメンバーを倍増させ、現在までに10教会（ブエノスアイレス、サンチアゴ、サンパウロ、リオ、サンジュアン、ボゴタ、プエブラ、モンテレー、グアダハラハラ）のリーダーを育て上げた。ラム夫妻はポーター夫妻、ベントリー夫妻、ピーターとローラ・ガルシアーベンゴチア夫妻、デアングス夫妻、ジャンバルバ夫妻を通して教会を倍増させた。ホンコンではグリーン夫妻が多くの人々の地元リーダーを育て上げ、彼らは共産主義国中国でキリストを宣べ伝えている。チン夫妻は台湾に教会を設立した。今日、Taliaferros 夫妻、ナンジュダン夫妻、チン夫妻、その他の伝道者とその妻たちは世界の中でそれぞれが任さ

れた地域や国を伝道し尽くすために次の世代のリーダーを育てている。(Ⅱ テモテ 2 : 2)

聖書回復の継続

私たちは13年近くの間いつも、聖書と祈りによって神と向かい合ってきた：それは「聖書回復による革命」であった。多くの教会が設立され、成長していくにつれてベアード夫妻、ゲンプル夫妻、エレイナと私、それに加えてボストンから送り出されたアーサー夫妻、ジョンソン夫妻は私たちが引き継いでいた伝統の中には聖書的でないものが多く含まれていることを発見した。第一世紀の聖書の教えがもう一度発見されていくにつれて、真の聖書回復（レストレーション）が起こった。例えば、イエスと同じように弟子になる決心をした者のみにバプテスマを授けること（ヨハネ4：1）、すべての教会において、クリスチャンが継続的にディサイプルされること（マタイ28：20）、すべてのクリスチャンの目的は失われた人を捜して救うことであること（ルカ19：10）、日々互いにオープンになり励まし合い、責任を取り合うこと（ヘブル3：12-13、エゼキエル3：17-21）、ディサイプルシップ・グループ（マルコ3：13-14）、ミッションチームを派遣し、教会を設立すること（使徒13：1-4）、世界的ビジョン（マルコ16：15）、一つの都市に一つの教会（黙示録2、3章）、教会の建物が必ずしも必要でないこと（使徒2：46；22：19）、家の教会（ハウスチャーチ、使徒20：20）、祈りと断食の復活（使徒13：3）、聖霊の役割と力（ローマ8章）、天使、悪霊、霊的戦いの認識（エフェソ6：10-18）、伝道者を育てること（マルコ3：13-14）、教会運営、特に伝道者と長老の役割について（テトス1：5、1テモテ3：1-7）、新約聖書における宣教及び貧しい人たちへの献金、犠牲の態度（使徒2：45；11：29）、リーダーの役割と女性のディサイプリング（テトス2：3-5）、教会間の一致：従来のように個々の教会が独立していると分裂をもたらさず（エフェソ6：4-6）、そして私たち教会は神の国であることを信じること（コロサイ1：13）。ストックホルムのダグラス・ジャコビーのような神学者が私たちの中から生まれたことはすばらしいことである。彼はハーバード大学神学部から新約聖書のM.T.S学位を与えられ、ロンドンのキングスカレッジの大学院で研究に携わっていた。彼はキリスト教の信頼性について書かれた「True and Reasonable」や聖霊についての間違った考えを正し、聖霊の力強い働きについて書いた「A Powerful Delusion」を出版した。

もう一つの喜ばしい聖書回復（レストレーション）は結婚と家族に関してであった。世界中の教会で今まで何百という結婚式があったが、聖書から神の望む結婚関係や役割（エフェソ5：21-33；1コリント7：2-5）について教えたり、その通りに実行していくことによって、どの教会においても神とその教会に忠実にしてきた夫婦で、離婚したものはない。聖書は相手の不貞、または相手が去って行った場合を除いてクリスチャンは離婚を求めてはいけないと教えている（マタイ5：32、1コリント7：15）。近所の伝道で教会に誘われた夫婦は以前に結婚に関して聖書から教えてもらうことはなかったし、それを実践するの

を助けてくれる人はいなかった。例えば、デイビッド・グラハムには女優の妻コリーンがいたが、彼女がボストンでクリスチャンに出会った時、デイビッドは自分のバンドであるグランド・ファンク・レイルロードと演奏ツアーをしていた。彼らには子供が一人おり、もう一人の出産予定があったにもかかわらず、二人は別居していた。彼らがキリストに人生を捧げたとき、「主が赦して下さったように互いに赦し合う」（コロサイ3：13）ことを学び、彼らの結婚関係は神によって癒された。今やデイビッドはロサンゼルス教会の長老兼伝道者であり、コリーンは婦人カウンセラーとなった。これと同じような話は世界中の教会で何度も繰り返し起きている。

1988年、ボストンの女性ディサイブルシップ会議でパット・ゲンプルは荒れて痛んだ自分の過去について、すべてをオープンにして話した。彼女のスピーチのタイトルは「女よ、なぜ泣くのか」であった。涙を流して、自分が夫に離婚されたこと、2人の小さな子供（ダグラス・アーサーとキム・アーサー・エヴァンズ）が手元に残され3人目の子供が生まれてくることで、押しつぶされそうだったことを話した。彼女はどうしようもなくなって3番目の幼児を養子にもらってもらうことにした。彼女は悲しみの中で神が慰めを与えてくれたことを話した。偶然ではなく神の導きによって、それを聞いていた姉妹の一人がパットの音信の途絶えていた子供を捜すことを申し出た。ほんの3カ月後、神の力強い働きによりロクサーンとパットは喜びと感動の再会をすることができた。その3人の子供たちとパットとボブはキリストのような赦し合う心によって再び一つになることができた。それは神の力強さの証明であった。この時ロクサーンは結婚して一人の子供がいたが、その数カ月後、彼女と夫のエディーはバプテスマを受けた。後になって彼女を養女として育ててくれた両親もクリスチャンになった！今日、エディーとロクサーン・アームス夫妻には3人の子供がおり、ゲンプル夫妻の他の子供たち、ダグラスやキムと彼らの配偶者であるジョイスやウォルターと同様にフルタイムで主のために働いている。（その間、パットの母親もクリスチャンになった。）ボブとパット・ゲンプルは赦し合うこと、聖霊の力、神の計画によってすばらしい家族関係が出来上がった。以前世の罪で傷跡を残した関係が、神によって癒されたのである。だれでも自分の息子や娘、兄弟や姉妹、母親や父親と関係を取り戻すという差し迫ったニーズがある。私たちはこの2つの勝利を通して、どのような関係でもキリストにあって修復するというビジョンを得ることができることを神に感謝しなければならない。

もう一つ聖書回復（レストレーション）は、1987年のボストン・ワールド・ミッション・セミナーで、ダグラス・アーサーと彼のロンドンの教会によって提起された「貧しい者を覚える」（ガラテヤ2：10）ことである。この清く汚れのない信心を復活させる努力がHOPEワールドワイドの設立につながった。これは教会から独立した世界中の貧困者たちのためのプロジェクトに専念する機関である（ヤコブ1：27）。HOPEはHelping Other People Everywhere

(あらゆるところで人々を助けるの意)の略である。HOPEプロジェクトはすでに以下のプロジェクトを開始している。メキシコシティ(小児科医療クリニック)、インドのデリー(らい病患者のための医療クリニック)、インドのマドラス(結核患者のためのクリニック)、象牙海岸のアビジャン(エイズクリニック、これはAP通信社によるとアフリカで初めて設立されたものである)、モスクワ(貧困者のための無料食堂)、アトランタ(養子、及び妊婦相談センター)そしてロサンゼルスのスラム街(クロス・アンド・スイッチブレード[飛び出しナイフ]ミニストリー：職業訓練及び斡旋、真夜中のバスケットボールプログラム、カウンセリング、そして大学奨学金[予定])。

おもしろいことに、私たちを批判しているジェリー・ジョーンズ(彼は何人かの信仰をだいなしにした。)が「ボストンの動きでは何を教えているか」という本の中で、「ボストンの動き」では教義がめまぐるしく移り変わるので、正確な論文は書けない。1986年8月から1989年11月の間に、たくさん急激な変化が見られた。(これがこの批判者がボストン教会を離れた時に述べた理由である。)他の「キリストの教会」の多くの人たちは、私たちが教義を変えることは異端以外の何ものでもないと言っている。しかしながらこれは、彼らが「キリストの教会」の動きが既に聖書回復を完全に実現しているとの前提に立っているものである。私たちは現在の「キリストの教会」の動きと聖書を比較してみて、そうであるとは考えられない。

私たちは始めから自分たちがいつも正しかったと言っているのではない。例えば、聖書の言う権威について当初幾つかの間違った理解をしていた。私はクリスチャンは教会のリーダーたちの意見にすべての点で従わなければならないと思っていた。これは正しくなかった。この誤りによって傷ついた人々に本当に申し訳なく思う。ヘブライ13:17は、リーダーが教会活動を聖書の教えに従ってリードする場合、これに従うべきであること、そうすれば彼らの働きは重荷にはならないことを教えている。しかし、リーダーは教会を支配するのではなく、耐えられないような重荷を背負わせるべきではない(マタイ23章)。

聖書の教えを回復しようとする場合、再発見された真理を実行するために試験的に試してみる時さえ、多くの兄弟姉妹の聖書の研究と討論がなされてきた。最終的に聖書から真理を見つけたと確信した時は、「ボストンの動き」のリーダーたちはいつも、教義的にも実践レベルでも変更することを恐れなかった。今日のほとんどの諸宗派や「キリストの教会」のリーダーたちの間では、(彼らは自分たちは「聖書回復[レストレーション]の動き」だと主張しているにもかかわらず)これはありえないことである。真に神を求めている人々を除いて、ほとんどの教会の死んでいる状態は神に対して彼らに不利な証言をしている。信じられないことだが、これらの同じ「クリスチャンのリーダーたち」の中には金銭を動機とした、イエスを信じてもないディプログラマー(盲信している人を説得して

目覚めさせる人)と手を組んでいる者がいる。はっきり言うならば、彼らにとって聖書回復(レストレーション)の代価は高すぎるし、彼らを脅かすものなのである。

今まで霊的戦いを続けてきたが、私たちの教会は「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。」(フィリピ4:4)というパウロのことばをいつも実行している。どの教会でも、兄弟姉妹たちはいつも楽しい時を過ごしている。ニューヨークの教会では「アップサイド・ダウン」と「スリングショット」という2つのミュージカルを制作した。子供向けの元気いっぱいな劇団、「ザ・パイド・パイパー」もある。サンディエゴ教会では海岸でスクエアダンスやコンサートを主催した。毎年夏、ボストン教会では自分たちの夏のオリンピック大会があり教会中がメダル獲得のために競い合う。ブエノスアイリス、サンパウロ、リオデジャネイロの教会ではサッカーゲームが開かれた。ロサンゼルス教会ではモスクワミッションチームのために基金を集めるためにワーカソンを主催し、デイビッド・グラハムとボトムラインは「Old Friends Never Die」というCDを制作した。最近、ロサンゼルス教会の独身者たちはクイーンメリー号の客船でバレンタインパーティを開いてお祝いをした。ロンドン教会のリーダーの何人かはパラシュート降下を楽しんだ。ニュージーランドのオークランド教会の兄弟姉妹はゴムボートで急流の川下をしたり、ブンジ・コード・ジャンピング(bunji-cord jumping)に出かけたりした。ヨハネスブルグの何人かの兄弟たちは車のレースに出場した。おそらく一番大胆だったのは、メキシコシティの兄弟たちが自分たちで闘牛をしたことである。幸いにも神の天使たちが彼らを守って下さった!この他にももちろん日曜日の交わり、学び会、ディサイプルシップグループの集まり、デート、リトリートや海でバプテスマを祝うことなど楽しいことがいっぱいある。私たちは独身生活に未練を残し、酩酊やボルノ写真をもてはやしているバチラーパーティーではなく、「groom-honoring party(新郎に敬意を表すパーティー)」や、結婚、真の喜び、深い友情関係を讃え合う「花嫁のための昼食会(bridal luncheon)」をすることにした。まさに、弟子の生活は楽ではないが、間違いなく、最も楽しいものだといえる。天国が私たちを待っていると思えばまさにそうである!

ボストンからモスクワへ

1990年1月から私の家族、エレイナ、オリビア(10才)、ショーン(9才)、エリック(7才)と私は3つのベッドルームのある家を借りてロサンゼルスに住み始めた。車は1985年式のドッジキャラバンがあるだけである。ボストン時代同様、私たちは势力的に地域の人たちを助けている。コーリー・ブラックウェルという元NBA(全米バスケットボール協会)選手と、彼の妻ミーガンと共に、私たちはロサンゼルスのスラム街を対象とした「クロス・アンド・スイ

ッチブレード・ミニストリー」をリードしている。また私は、子供たちの通う小学校の敷地委員会 (Site Council) に参加し、息子のバスケットボールチームのコーチもしている。ロサンゼルス教会はボストンからの25人の弟子たちと、サンディエゴとサンフランシスコからの25人で2年半前に始まった。私たちはフークエ夫妻や新しいロサンゼルス教会の長老であるビル・フーパー、デイビッド・グラハム、ブルース・ウィリアムズ、とその妻たち、サリー、コリーン、ロビンによってすばらしく支えられ、今や神の祝福によって毎週日曜日に2500人もの人たちが集まっている！最近エレイナと私はロサンゼルス教会を「スーパーチャーチ」にすることに集中している。すべての教会が成長／成熟し、神の栄光を現すべきであることの模範となるためである (1テサロニケ1:7)。アトランタ、デンバー、ロンドン、キングストン、マニラ、マイアミ／フォート・ローダーデール、オーランド、トロントの教会では毎週日曜日、1000人以上が礼拝に出席しており、これは大きな励ましである。また、シカゴ、ロサンゼルス、サンディエゴ、サンフランシスコの教会は毎週日曜日に2000以上が出席し、ニューヨーク教会では4000人近い人々が集まる。ボストンでは最近6500人が日曜礼拝に出席したのは大きな喜びである！しかし、「使徒の働き」のように、私たちは多数の何千人もの人が集まる教会 (スーパーチャーチ) を目指すべきである。過去3年間、夏の間私の家族はカイロなど特にアメリカ人クリスチャンにとっては命の危険を伴う都市に住み、同時にマニラ、バンコック、モスクワに教会を設立した。まず自分が経験したのでなければ、誰も危険な状況に送り込むことはできないというのが私の確信である。13年も経たないうちにたった30人しかいなかった一つの教会が世界の全大陸に103の教会が存在するまで (日曜出席者は全体で5万人以上) に倍増したのは信じられないことである！現在、ボストンの最初の年にあったバプテスマの数だけの教会数が存在する！イエスがこう言われた。「しかし、あなたがたの目は見ているから幸いだ。あなたがたの耳は聞いているから幸いだ。はっきり言うておく。多くの預言者や正しい人たちは、あなたがたが見ているものを見たかったが、見ることができず、あなたがたが聞いているものを聞きたかったが、聞けなかったのである。」 (マタイ13:16、17)

私たちは「大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です」 (1コリント3:7) と言うことを知っている。キングストン、ボンベイ、マドラス、クアラルンプール、ブリスベーン、オークランド、ロンドン、バーミンガムとマンチェスター、エジンバラ、アンマン、カイロ、コペンハーゲン、ヘルシンキ、ソウル、フィジー、メルボルン、タイペイの教会ではその国の出身者が教会をリードしている。さらに多くの教会がこれにならうであろう。弟子が倍増することがすばらしいが、「ボストンの動き」でユニークなのは教会が倍増していることである。過去13年間で、神はボストンの教会を通して34の教会が設立されたか、リコンストラクト (再建) された。2代目の教会は60の3代目の教会を設立し、そこからすでに7つの4代目の教会が設立された。フ

イジー諸島のラウトカに最初の5代目の教会ができたが、これは神の栄光の力によるものである。ボストン教会がロンドン教会を立て、ロンドンがシドニーを、シドニーがオークランド、オークランド教会がフィジーに教会を立てたのである。御心ならば、1992年中に少なくとも、もう30個の教会が設立される予定である。第一世紀にエルサレムからローマへとキリスト教が広まったのは驚くべきことであったが、それと同様に、現代の「神の動き」が13年間でボストンから中国へ、さらにモスクワへと広まったのも、また驚くべきことである。ロサンゼルスから送り出されたモスクワキリストの教会は、現在フレミング夫妻が大胆にリードしているが、私たちの「動き」の歴史の中で最も早く成長している。神は15人の弟子を、たった8カ月後、毎週日曜日の朝に800人が集まるほどに成長させてくださった！

ボストンで始まり「世界中に鳴り響いた」革命は、弟子たちが聖書の教えをすべて回復させ、その通りに生きる努力をやめない限り、何物も止めることはできない。最近、ドイツのグループ、スコープイオンズが出した「Wind of Change」という歌には今の時代にふさわしい預言的なメッセージが入っている。

私はモスクワをゴーリキー・パークまで歩いた。

新しい風の音が聞こえる。

夏の夜、兵士は通り過ぎ、

新しい風の音が聞こえる。

世界が近づいてくる。

あなたは私たちが兄弟のようになれると思ったことがあるか。

私たちの将来はわからない。

それはどこでも感じられる。

新しい風が吹いている。

栄光の夜に、一瞬の奇跡を見せてくれ。

明日の子供たちは新しい風のなかで

夢のような時を過ごすだろう。

まさに新しい風（聖霊）はこの奇跡をもたらした。過去数年の間に、聖霊は今まで伝道の道を閉ざしていた門を、剣、飢饉、疫病、自然災害、不景気や法律改正によってドラマチックに開けた。南アフリカ（アパルトヘイトの廃止）、中央アフリカ（飢饉とエイズ）、中近東（湾岸戦争）、中国（1997年ホンコン条約）、メキシコシティーとフィリピン（地震と火山爆発）、東ヨーロッパ（ベルリンの壁の崩壊）、ソ連（クーデターとCISの成立）。これらの門が開かれたのは偶然ではなく、世界中のクリスチャンの祈りの結果、神が働かれたからである。（コロサイ4：2-4）。私は神の力が神の弟子たちを通して働いて、この世代で世界中が伝道されるという夢が実現することを心から信じている。神に栄光を！